



特60

義士

565

烈婦銘傳

全

特60 569



大石良雄の事
 大石良雄は、
 大石氏の長子として、
 幼少にして、
 父の遺志を継ぎ、
 武芸に秀でて、
 名震るる者なり。



大石良雄

大石氏の事
 大石氏は、
 大石氏の長子として、
 幼少にして、
 父の遺志を継ぎ、
 武芸に秀でて、
 名震るる者なり。



大石氏

おゆう

片田の巫

此の巫の事は古くは神代文
 書にありてその名は
 神代文にありてその名は
 神代文にありてその名は
 神代文にありてその名は
 神代文にありてその名は
 神代文にありてその名は



片田の巫

此の巫の事は古くは神代文
 書にありてその名は
 神代文にありてその名は
 神代文にありてその名は
 神代文にありてその名は
 神代文にありてその名は
 神代文にありてその名は



原宗在明妻まつ子

せんせつりてみよしのこがけりてきたる
 十二年とていふはむすめはなつかし
 せんせつりてみよしのこがけりてきたる
 十五きいりくも、おろもむも
 あつげとあつげなむう宗いもん
 げんせいのせもあつてもなむち
 つつとあつてみよしのこがけりてきたる
 ちかちかしてあつてみよしのこがけりてきたる
 とだてたりしが、あつてみよしのこがけりてきたる
 けいけい死すよ、せんせつりてみよしのこがけりてきたる
 一のびす、十日あつたりてあつてみよしのこがけりてきたる
 あんすあつてみよしのこがけりてきたる
 あつてみよしのこがけりてきたる



同むすめみ

あつてみよしのこがけりてきたる
 ちかちかしてあつてみよしのこがけりてきたる
 とだてたりしが、あつてみよしのこがけりてきたる
 けいけい死すよ、せんせつりてみよしのこがけりてきたる
 一のびす、十日あつたりてあつてみよしのこがけりてきたる
 あんすあつてみよしのこがけりてきたる
 あつてみよしのこがけりてきたる



小野寺秀和の妻

まはらんごさうりたもいうたうらうら
ひすうききさきさきうけあつとまはら
いひつきーくーいーとわ十内
あうそくろりそらうらうら
うんろい十二年二月三日
のぢんつろよそもトあん
おんよもあきまーきうね
てういごうとごういばーたば
まーそめじかちうらわーちん
よなーせつとくいんいーもたはらうらとせう
しーとまら

あーたりん



茅野三平の妻

ひらまつさんだいぶがいのとま
さんべいしうらうらまいがたて
ちーちうらうらまいがたて
ーまつまーまつまあうち
まあしーがままやまーま
まらーちうらうらま
いあままらうらうらま
ひねまひたすたまら
まーまあまいしーまつま
くまらうらうらま

くだらせ
まらうらうら



松野十平治り母

十平治り母の心づからいふこと
 十平治り母の心づからいふこと
 十平治り母の心づからいふこと
 十平治り母の心づからいふこと
 十平治り母の心づからいふこと
 十平治り母の心づからいふこと
 十平治り母の心づからいふこと
 十平治り母の心づからいふこと
 十平治り母の心づからいふこと
 十平治り母の心づからいふこと
 十平治り母の心づからいふこと
 十平治り母の心づからいふこと



山岡寛兵衛

山岡寛兵衛の心づからいふこと
 山岡寛兵衛の心づからいふこと
 山岡寛兵衛の心づからいふこと
 山岡寛兵衛の心づからいふこと
 山岡寛兵衛の心づからいふこと
 山岡寛兵衛の心づからいふこと
 山岡寛兵衛の心づからいふこと
 山岡寛兵衛の心づからいふこと
 山岡寛兵衛の心づからいふこと
 山岡寛兵衛の心づからいふこと
 山岡寛兵衛の心づからいふこと



村松三木夫と妻

むくたきんごせうくくのいのま
 十光オキくむらまづまうーとつ
 三木夫いどつめつめすきぞく
 四人いりしとこまーとめたり
 くのしおもくくべしがつま
 ひまあてめうくーにら
 いたのまきらんーまま
 きたちきーとつろーづ
 まつあはれまひまあ
 きーとーにまきつ
 くらあまごう
 むんーまらうて
 ねんぶつき
 一のまき



武林惟七と妻

あまごさだんどもうてうとと
 けういなるうがをいううとま
 ろうてきうまあうてうひらよ大
 むんぶつろきちけよま
 ーとらういろうてひま
 あまかーまごま
 けはまらまらまらまら
 まらまら
 まらまらまらまら
 まらまらまらまら
 まらまらまらまら





妓女刈藁

けしき入りまじりてまぢりあつたのうら
 なきまじりてまぢりあつたのうら
 まぢりあつたのうら
 まぢりあつたのうら
 まぢりあつたのうら
 まぢりあつたのうら
 まぢりあつたのうら
 まぢりあつたのうら
 まぢりあつたのうら
 まぢりあつたのうら
 まぢりあつたのうら

岡野金右門の母



むくたしりてあつたのうら
 まぢりあつたのうら
 まぢりあつたのうら
 まぢりあつたのうら
 まぢりあつたのうら
 まぢりあつたのうら
 まぢりあつたのうら
 まぢりあつたのうら
 まぢりあつたのうら
 まぢりあつたのうら

まぢりあつた

問重次郎の妻

わが身をたもたせんとす
とてわが身をたもたせんとす
とてわが身をたもたせんとす
とてわが身をたもたせんとす
とてわが身をたもたせんとす
とてわが身をたもたせんとす
とてわが身をたもたせんとす
とてわが身をたもたせんとす
とてわが身をたもたせんとす
とてわが身をたもたせんとす



梅林助右衛門正因の母

わが身をたもたせんとす
とてわが身をたもたせんとす
とてわが身をたもたせんとす
とてわが身をたもたせんとす
とてわが身をたもたせんとす
とてわが身をたもたせんとす
とてわが身をたもたせんとす
とてわが身をたもたせんとす
とてわが身をたもたせんとす
とてわが身をたもたせんとす



明治十八年一月十四日御届
同 二月廿六日出 版

定價八錢

東京府平民

編輯出版人

木村鉄三郎

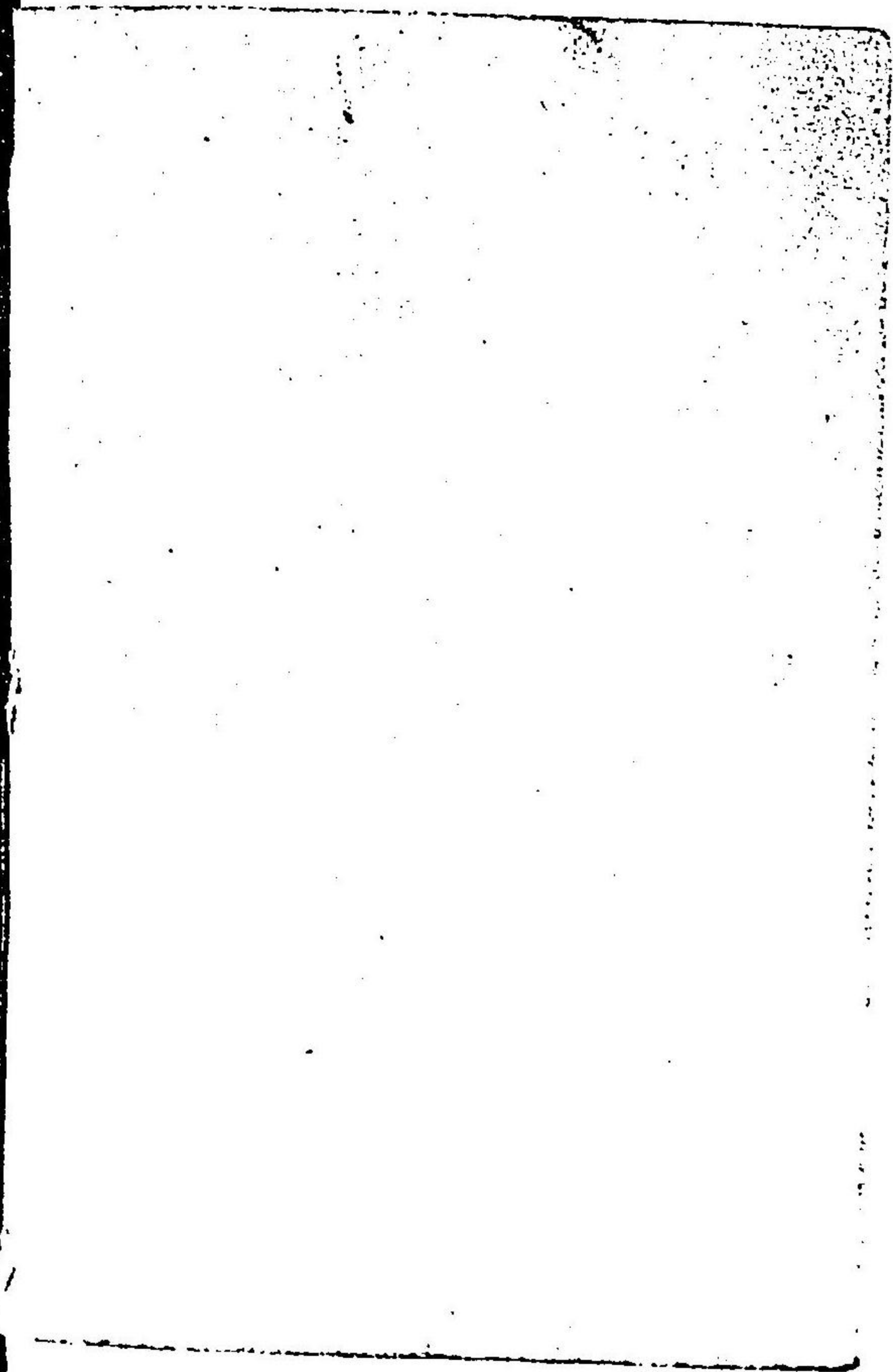
神田區美神保町一番地

發兌人

昌

平

樓





特60

569

091909-000-1

特60-569

赤穂義士烈婦銘々伝

昌平楼

M18

DBP-0007

